

軍慰安婦や強制連行被害者など各国の戦争被害者が一同に会し、証言を行った。こうした試みは日本の戦後初めてのことだった。

● レーン・宮沢事件

オススメ

ビデオ制作委員会（協力ビデオプレス）・1993年・50分・3000円（団体9000円）

1941年12月8日、北大学生の宮沢弘幸さんと英語教師のレーン夫妻が軍事機密漏洩の疑いで逮捕され、懲役12年から15年の刑を受けた。冤罪事件の真相を追ってアメリカ・イタリアに取材。戦前の国家秘密体制の爪跡を明らかにする。

● 朝鮮人元従軍慰安婦の証言

オススメ

朝鮮人強制連行真相調査団（協力ビデオプレス）・1992年・30分・5000円（団体15000円）

北朝鮮在住者の証言がビデオに収録されたのは初めて。70歳代のお年寄りが涙を流しながら証言する姿に、旧日本軍の行為が浮かびあがる。北朝鮮政府の協力で名乗り出た4人の元慰安婦が、実名で登場し、朝鮮語で訴える。

● 強制連行パート1

ビデオプレス・1990年・33分・6000円（団体18000円）

戦時中、強制連行され苛酷な労働を強いられた朝鮮人。その隠された実態を生き証人が語る。あばかれる衝撃的事実。

<人権>

● 裁判所前の男

オススメ

ビデオプレス・2015年・65分・3800円（団体20000円）

裁判所批判を続ける大高正二さんのドキュメンタリー。ふつうの市民がなぜ裁判所とたたかうようになったのか。目の上のタンコブだった大高さんは、警察と裁判所によるデッチ上げ逮捕で有罪とされ、2年



以上も勾留された。たった一人で巨悪に立ち向かう大高さんの姿が感動的。裁判所の闇を撃つ「快作」だ。司法を考える上映会に最適。

● スカーフ論争 — 隠れたレイシズム

フランス・2004年・75分・4500円（団体12000円）

第二次大戦後、フランスは大量の移民労働者を北アフリカから導入したが、やがて「移民第二世代」が登場し、学校にイスラムのスカーフを着用して登校する生徒が現れると、しだいに問題視されるようになった。スカーフの着用がフランスで大きな論争を呼ぶのはなぜか。スカーフをまとう当事者たちの声を拾い上げたジェローム・オスト監督の渾身のドキュメンタリー。

● 盗聴法はゴミ箱へ

— 無法国会から見えてきたもの

ビデオ制作チーム（協力ビデオプレス）・2000年・30分・2500円（団体7500円）

民主主義のかけらもない、とにかく酷かった自自公による世紀末国会。警察に「盗聴権限」を与え、市民のプライバシーが侵害される法律には、問題山積、国民の大多数が反対した。無法国会の実態と盗聴法のおかしさを暴露する。

● 横浜事件 — 半世紀の問い

ビデオプレス・1999年・35分・3500円（団体10500円）

戦時下の治安維持法弾圧事件である横浜事件では、約60名のジャーナリストや知識人がデッチあげで検挙され、有罪にされた。横浜事件のなかの「政治経済研究会事件」を中心に、被害者の板井庄作さん・勝部元さんを取材、知られざる事件の全貌に迫る。

● トーチャー（拷問）

— 拷問等禁止条約批准をめざして

人権ビデオ制作委員会（協力ビデオプレス）・1998年・27分・5000円（団体15000円）

人間の尊厳を冒し精神の自由を奪う拷問。しかし、いまだに世界の各地で、そして日本の拘禁施設で拷問が行われている。拷問とはなにか、なぜ国連と国際社会は拷問等禁止条約をつくったのかをわかりやすく解説。世界人権宣言50周年を記念して制作された。